

会社近況報告会

2023年5月16日

【証券コード:9959】

ASEED

「ASEEDING THE FUTURE」

人、地球、未来－すべての笑顔と健康のために



アシードホールディングス株式会社
代表取締役社長 河本 大輔

説明のポイント

- ① 2023年3月期決算の状況は、前期に実施した減損処理の効果もあり、営業利益・経常利益については過去22年間、当期純利益については過去23年間で最高となった。

エネルギーや原材料価格の上昇・高止まりの影響を受け、多くの商品で値上げが実施されたものの、コロナによる規制の緩和により自販機運営リテイル事業、飲料製造事業ともに回復基調となっている。

- ② 自販機運営リテイル事業については、事業子会社2社を合併し構造改革を進めるとともに、営業権の取得などを進めている。

飲料製造事業は昨年、河村農園を子会社化し健康茶などの製造を開始するとともに、宝積飲料の製造設備更新を行い製造能力を増強した。

4月に子会社化した静岡ローストシステムなど更なるM&Aを強化し事業拡大を目指す。

- ③ 中期経営計画において、自販機リテイル事業の構造改革とM&Aによるグループ強化、新規事業・海外事業の強化による成長を加速させる。

2026年3月期を最終年度とする中期経営計画で、売上高約300億円、経常利益16億円を目指す。

本日の内容

I. 事業概要

II. 前期決算概況と今期通期見込

III. 成長戦略

- 商号 アシードホールディングス株式会社（ASEED HOLDINGS CO., LTD.）
- 所在地 広島県福山市船町7番23号
- 設立 1972年11月20日
- 代表者 代表取締役社長 河本 大輔
- 資本金 7億9,847万円
- 従業員数 638名（グループ）
- 事業所（グループ）

本社 広島県福山市船町7番23号
 国内支店営業所 全国主要都市44カ所
 工場 アシードブリュー 宇都宮飲料工場（栃木県下野市）
 宝積飲料 志和飲料工場（広島県東広島市）
 河村農園 本社工場、第2工場（大分県佐伯市）
 物流拠点・環境事業拠点 5カ所
 駐在員事務所 ベトナム（ホーチミン市）

●連結子会社

アシード株式会社（東京都港区）
 アシードブリュー株式会社（広島県福山市）
 宝積飲料株式会社（広島県東広島市）
 アオンズエステート株式会社（広島県福山市）
 ロジックイノベーション株式会社（岡山県岡山市）
 株式会社河村農園（大分県佐伯市）

●持分法適用関連会社

HaLong Beer And Beverage Joint Stock Company ベトナム（ハロン市）



グループ企業理念

「明日(A)へ向けてまく種子(SEED)」は、自然と環境に感合して、果実を結びながら安定した良樹に成長する。我々は、因果律を基本とし、道義と知行合一の経営に努める。最良の品質と真心をもって、お客様の満足を追求し、人の健康と幸福を通じて豊かな社会の実現に貢献する。

グループ・
ビジョン

「ASEEDING THE FUTURE」
人、地球、未来－すべての笑顔と健康のために

アシードグループは、人、地球、未来がもっと笑顔で健康になるために、その思いを込めた種をまき続け、実現に向けて貢献しながら、日々成長を遂げていくことを宣言します。

- ①飲料・食品を通じて、笑顔と潤いに溢れた健康な生活シーンを提供します。
- ②生き生きと笑顔で働き、豊かで健康な人生を送ります。
- ③未来のために地球と調和した持続可能な成長を続けます。

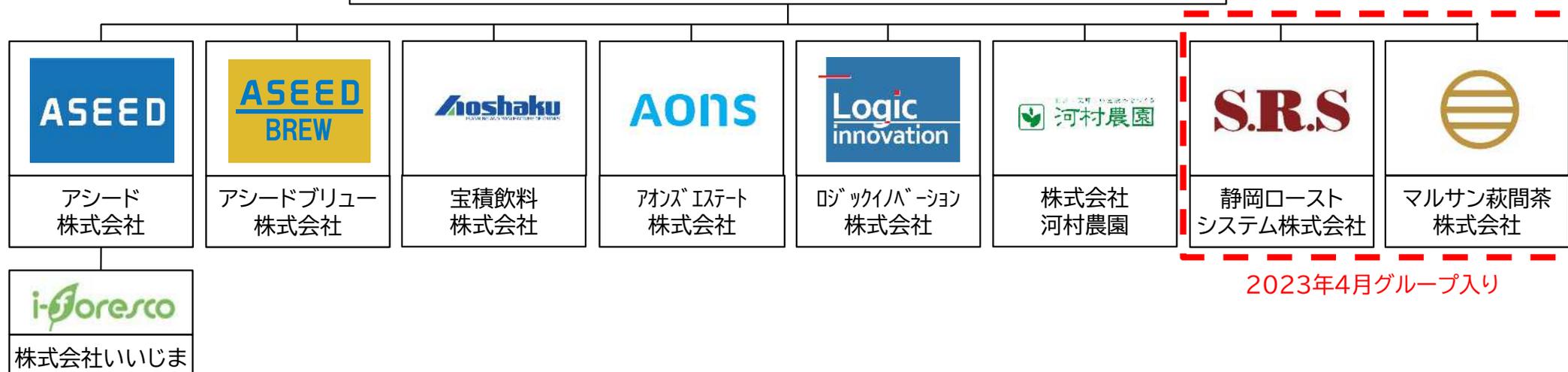
グループ・
ミッション

バランスある企業価値の最大化

- 事業価値** 時代の要請と顧客ニーズにあった、すぐれた技術、製品及びサービスを提供し、社会の便益を図り生活者とともに真の豊かさを実現する。
- 人間価値** 人間尊重と人材育成を基本とし、社員の福祉向上と能力開発に努力し、働く個人に自己実現の場を提供する。
- 社会価値** 自然、人類や社会の持続的・調和的な発展に貢献するため、市民社会のよき一員として積極的にその役割を果たす。
- 資本価値** 組織の総力を結集して行動し、明日の事業活動(収穫)のための利益(種子)確保し、企業存続と変革に要する未来費用として必要な付加価値の増大に努力する。

- 
- 2023年4月 静岡ローストシステム株式会社とマルサン萩間茶(現・連結子会社)の株式を取得
 - 2022年10月 北関東ペプシコーラ販売株式会社がアシード株式会社を吸収合併し、アシード株式会社に商号変更
 - 2022年8月 株式会社河村農園(現・連結子会社)の株式を取得
 - 2022年4月 東証の市場区分再編により、スタンダード市場を選択
 - 2021年7月 ロジックイノベーション株式会社(現・連結子会社)の株式を取得
 - 2021年6月 連結子会社の北関東ペプシコーラ販売株式会社が株式会社いいじまの株式を取得
 - 2020年10月 連結子会社のアシード株式会社が有限会社大邦食品の株式を取得-
 - 2019年9月 栃木県下野市の物流倉庫(アシード ロジスティクスセンター)を取得
 - 2014年7月 ベトナムのHaLong Beer And Beverage Joint Stock Companyの株式を取得し、持分法適用関連会社とする
 - 2011年4月 宝積飲料株式会社の株式を取得し子会社化
 - 2008年10月 アシード株式会社をアシードホールディングス株式会社に商号変更し持株会社制へ移行
自販機運営事業を株式会社バンデックスへ承継
株式会社バンデックスをアシード株式会社に商号変更
 - 2008年8月 アオンズエステート株式会社を設立
 - 2004年4月 三吉酒造場をアシードブルー株式会社に商号変更
北関東ペプシコーラボトリング株式会社の飲料製造事業をアシードブルー株式会社に統合
北関東ペプシコーラボトリング株式会社を北関東ペプシコーラ販売株式会社に商号変更
 - 2001年2月 東京証券取引所 市場第二部上場
 - 2000年11月 株式会社三吉酒造場の株式を取得し子会社化
 - 1999年2月 北関東ペプシコーラボトリング株式会社の株式を取得し子会社化
 - 1993年12月 店頭市場に株式公開
 - 1989年6月 アシード株式会社に商号変更
 - 1972年11月 日本バンテン株式会社 設立

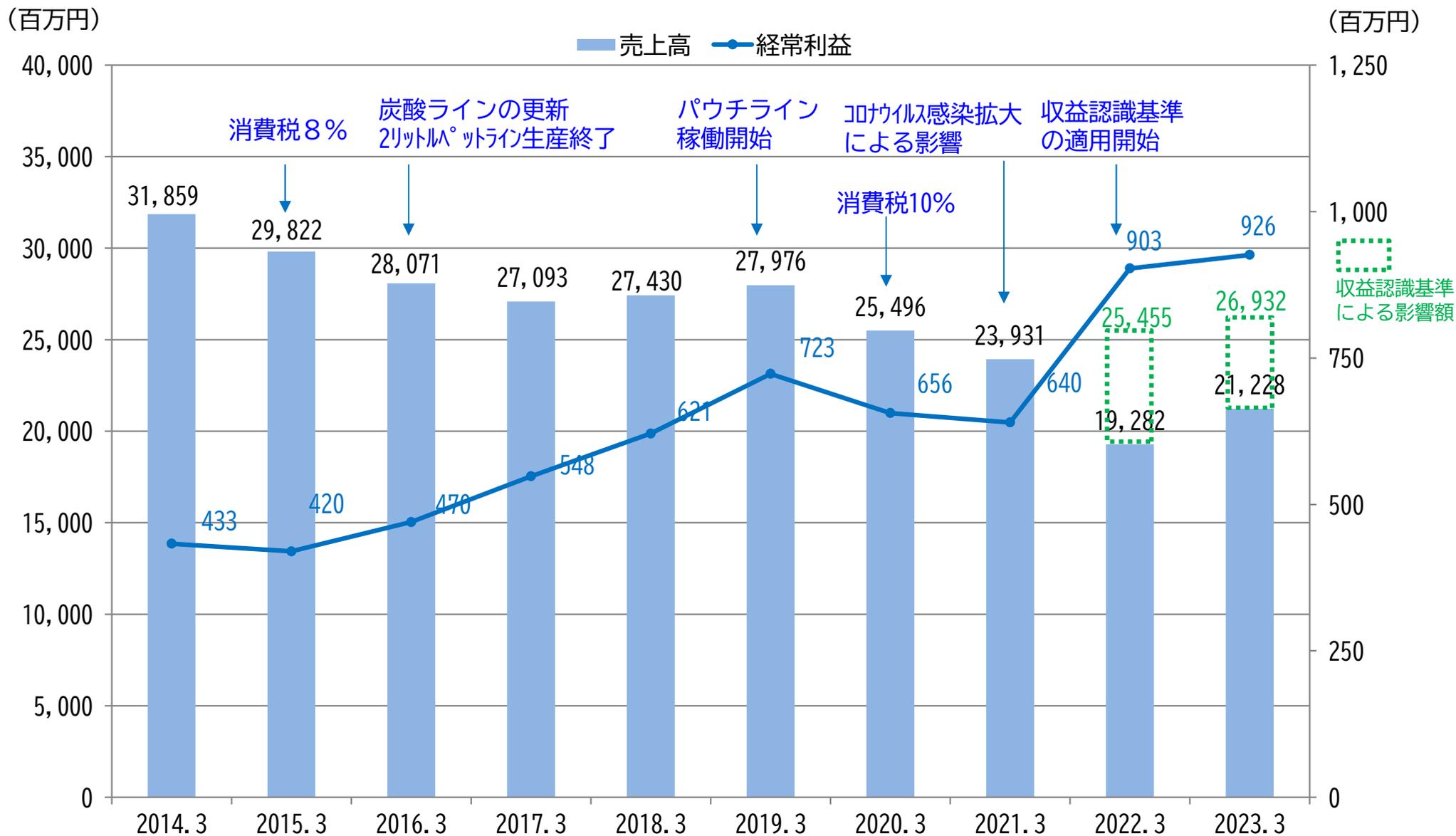
ASEED アシードホールディングス株式会社



自販機運営リテイル事業	カップ飲料、缶・ボトル飲料、スナック等の自販機による小売販売及び運営管理、小売店への販売 飲料自販機用カードの販売・システム管理	国内	アシード(株) アシードブリュー(株)	2社
飲料製造事業	清涼飲料及び低アルコール飲料の企画・製造・販売 健康茶などの栽培・製造・販売	国内	アシードブリュー(株) 宝積飲料(株) (株)河村農園 静岡ローストシステム(株) マルサン萩間茶(株)	5社
		海外	HaLong Beer And Beverage Joint Stock Company【ベトナム】※	1社
不動産運用事業	オフィスビル・商業施設等の開発及び賃貸等グループ所有の不動産の有効活用と効率管理	国内	アシードホールディングス(株) アオンスエステート(株)	2社
その他事業	物流事業として商品管理・納入代行・流通加工等 環境事業として食品残債など産業廃棄物の再資源化	国内	ロジックイノベーション(株)	1社

※ HaLong Beer And Beverage Joint Stock Companyは持分法適用関連会社

● 過去10年の売上高・経常利益推移



本日の内容

I. 事業概要

II. 前期決算概況と今期通期見込

III. 成長戦略

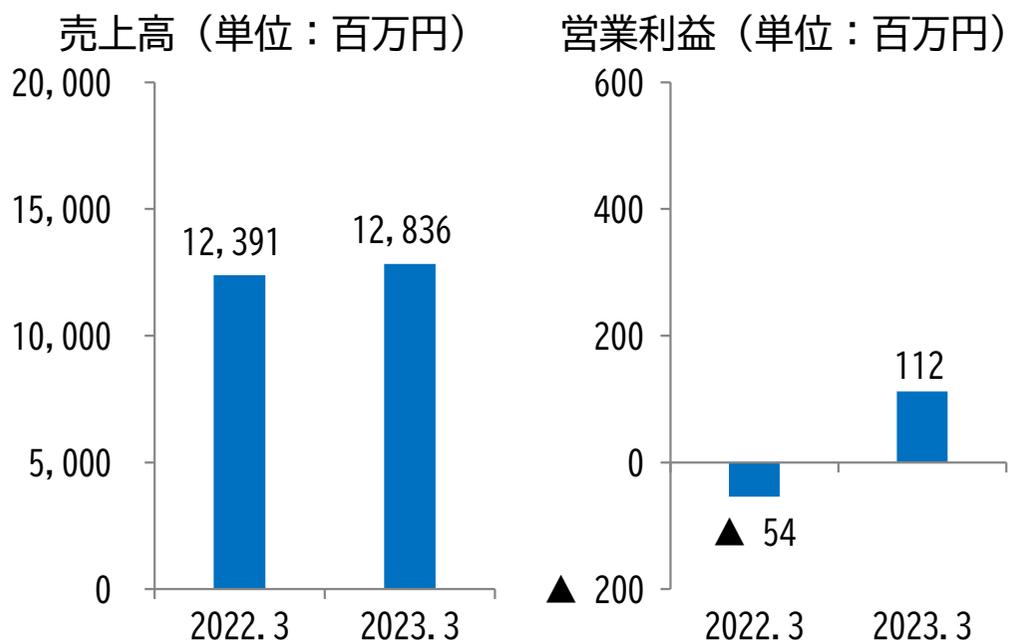
売上高の増加の主な要因は、エネルギーや原材料価格の上昇・高止まりの影響を受け、多くの商品の値上げが実施されたものの、新型コロナウイルス感染者の減少を受けた規制緩和やコロナ禍の自粛で大幅に増加した貯蓄に支えられ、個人消費は回復基調を示していることによるものです。

	2022年3月期	2023年3月期	増減額／率
売上高	19,282百万円	21,228百万円	1,945百万円 / 10.1% ※自販機運営リテイル事業444百万円増 ※飲料製造事業1,433百万円増
営業利益	647百万円	675百万円	27百万円 / 4.3%
経常利益	903百万円	926百万円	22百万円 / 2.5% ※持分法投資利益 90百万円増 ※助成金収入 37百万円減
親会社株主に帰属する 当期純利益	178百万円	602百万円	423百万円 / 237.3% ※前期に次の処理を行ったため今期は増加 自販機リース資産等の減損損失 △251百万円 繰延税金資産取崩 △137百万円

●自販機運営リテイル事業

売上高	12,836百万円 (前年同期比3.6%増)
営業利益	112百万円 (前年同期は△54百万円)

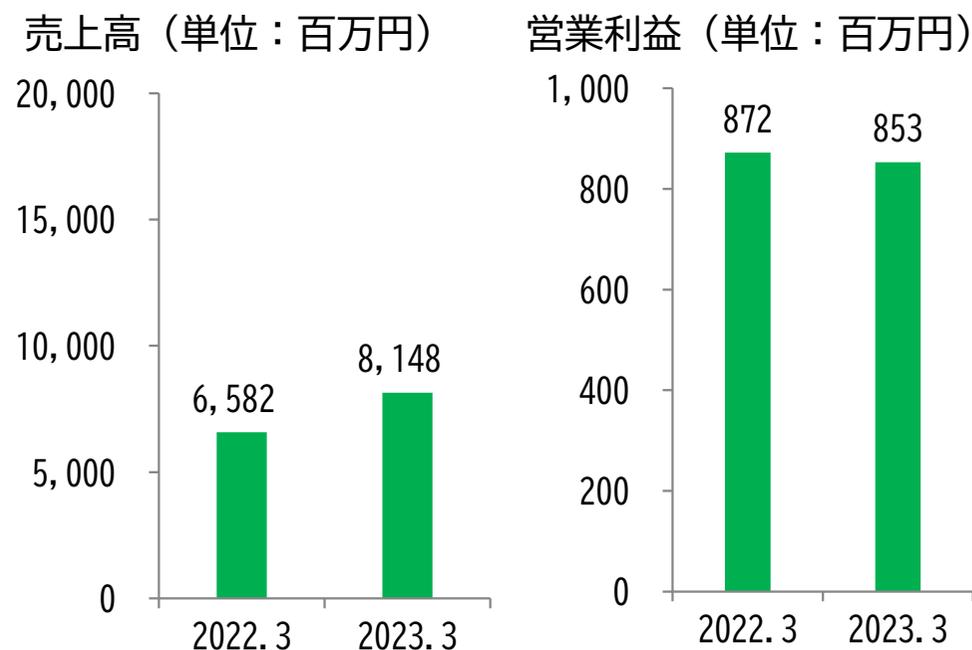
- ・ 昨年10月1日以降、自販機での商品価格改定を実施し、収益性の改善に取り組んだ。
- ・ 自販機運営会社2社の合併により、共通コストの削減
- ・ 「アストアスター 有田みかんのフェイハイ」、ワイン用のブドウ品種で作る「女王のハル スパークリングテイスト」を新発売。



●飲料製造事業

売上高	8,015百万円 (前年同期比21.8%増)
営業利益	853百万円 (前年同期比2.2%減)

- ・ 売上は堅調だがエネルギーと原材料の高騰により収益を圧迫。
- ・ 宝積飲料株式会社志和工場の製造設備更新が1月に完了し、缶・ビン炭酸飲料の製造能力を増強。
- ・ アストブルー宇都宮飲料工場では全体の照明の60%をLEDへ移行するなど、サステナビリティへの取組みを着実に推進。

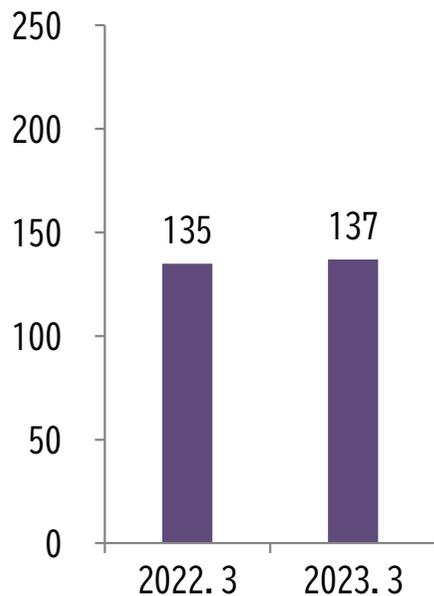


●不動産運用事業

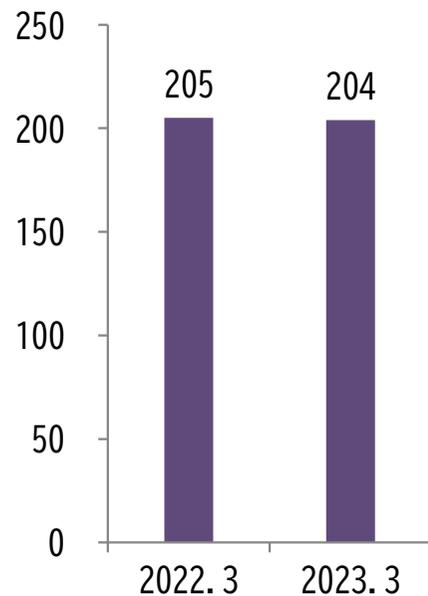
売上高	137百万円 (前年同期比1.2%増)
営業利益	204百万円 (前年同期比0.6%減)

・セグメント間の内部売上高218百万円を含めると355百万円。

売上高 (単位：百万円)



営業利益 (単位：百万円)

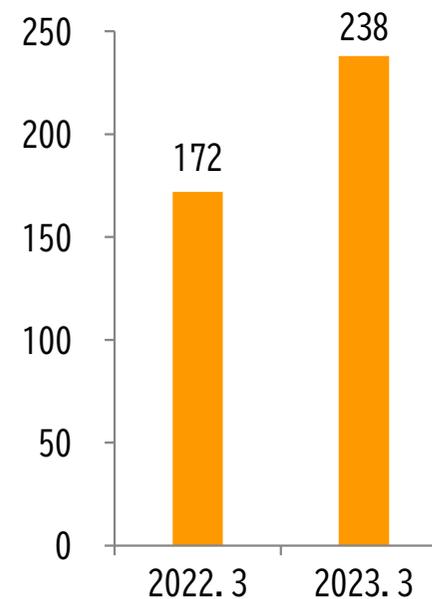


●その他事業

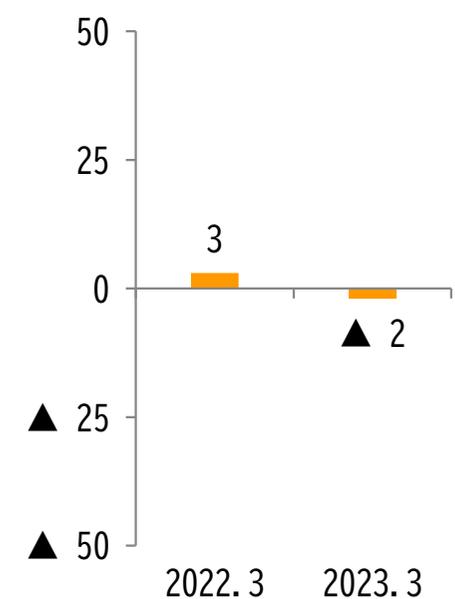
売上高	238百万円 (前年同期比38.5%増)
営業利益	△2百万円 (前年同期は3百万円)

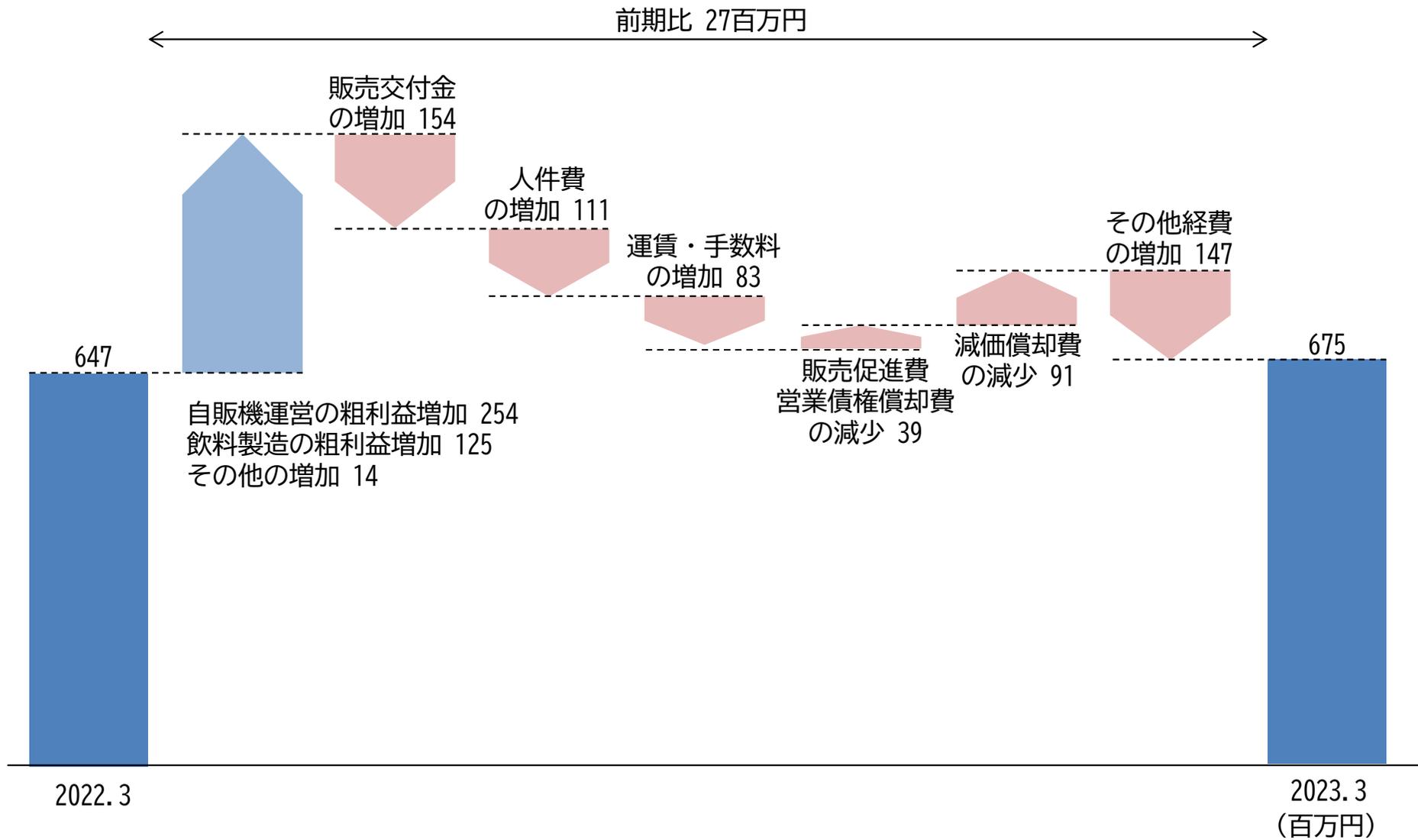
・国内消費の回復を受け、ロジックイノベーション株式会社の物流部門への引き合いが増加すると共に、グループ内各社の物流の課題への取組み強化を図る。

売上高 (単位：百万円)



営業利益 (単位：百万円)





● 連結貸借対照表 要旨

(単位：百万円)

科 目	2022.3	2023.3	増減	科 目	2022.3	2023.3	増減
資産の部				負債の部			
流動資産	5,531	5,696	165	流動負債	7,678	8,035	356
固定資産	9,581	10,880	1,298	固定負債	2,330	2,920	590
有形固定資産	7,685	8,771	1,085				
無形固定資産	156	267	110				
投資その他の資産	1,739	1,841	101				
				負債合計	10,008	10,955	947
				純資産の部			
				株主資本	5,512	5,957	445
				その他の			
				包括利益累計額	△408	△336	71
				新株予約権	0	—	△0
				純資産合計	5,104	5,620	516
資産合計	15,112	16,576	1,463	負債純資産合計	15,112	16,576	1,463

資産 … 前期比1,463百万円増加

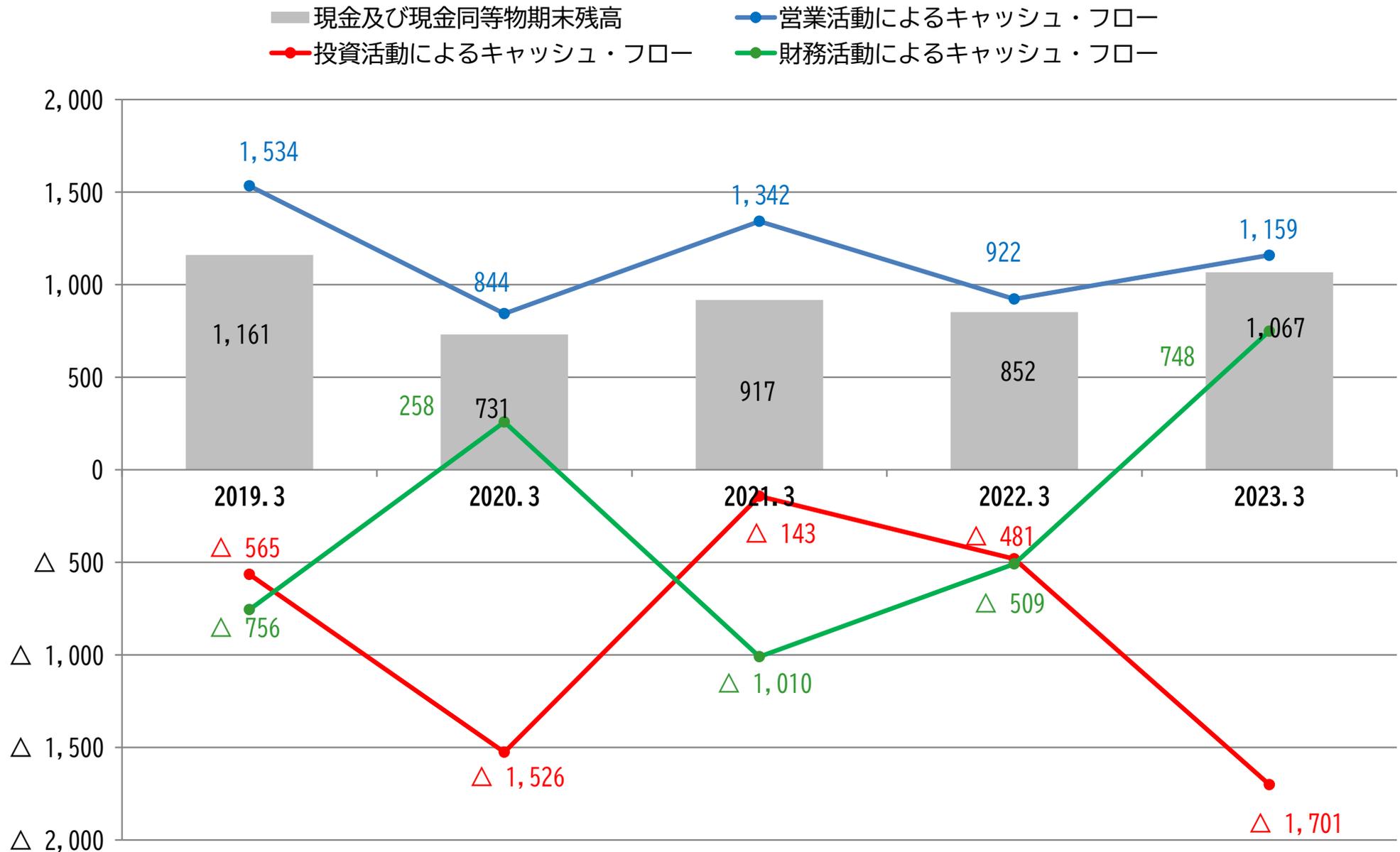
現金及び預金	173
受取手形及び売掛金	276
商品及び製品	△451
建物及び構築物	138
機械装置及び運搬具	1,069
建設仮勘定	△114
投資有価証券	239

負債 … 前期比947百万円増加

買掛金	△190
短期借入金	430
1年内返済長期借入金	130
未払金	122
未払法人税等	△98
長期借入金	667

純資産 … 前期比516百万円増加

当期純利益	602
剰余金の配当	△164



4月より静岡ロースシステム株式会社とマルハ萩間茶株式会社がグループ入りしたことで、当社グループは9社の連結子会社、1社の持分法適用関連会社の体制となりました。アドバザリ費用等が発生するため、連結業績に与える影響は2年目以降（2025年3月期）を想定しています。

自販機運営事業は売上が回復しつつあり、5月から各飲料メーカーの小型缶飲料の値上げが予定されており、当社も販売価格の改定を実施予定。飲料製造事業は宝積飲料の新ラインの稼働や値上げの実行により収益の改善を見込む。グループ各社が得意分野を伸ばすとともに、相互のシ너지効果を高めブランド価値の創造と生産性の向上に取り組んでまいります。

	2023年3月期 実績	2024年3月期 業績予想	増減額／率
売上高	21,228百万円	22,500百万円	1,271百万円 / 6.0 %
営業利益	675百万円	750百万円	74百万円 / 11.1 %
経常利益	926百万円	1,000百万円	73百万円 / 7.9 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	602百万円	650百万円	47百万円 / 7.9 %

本日の内容

I. 事業概要

II. 前期決算概況と今期通期見込

III. 成長戦略

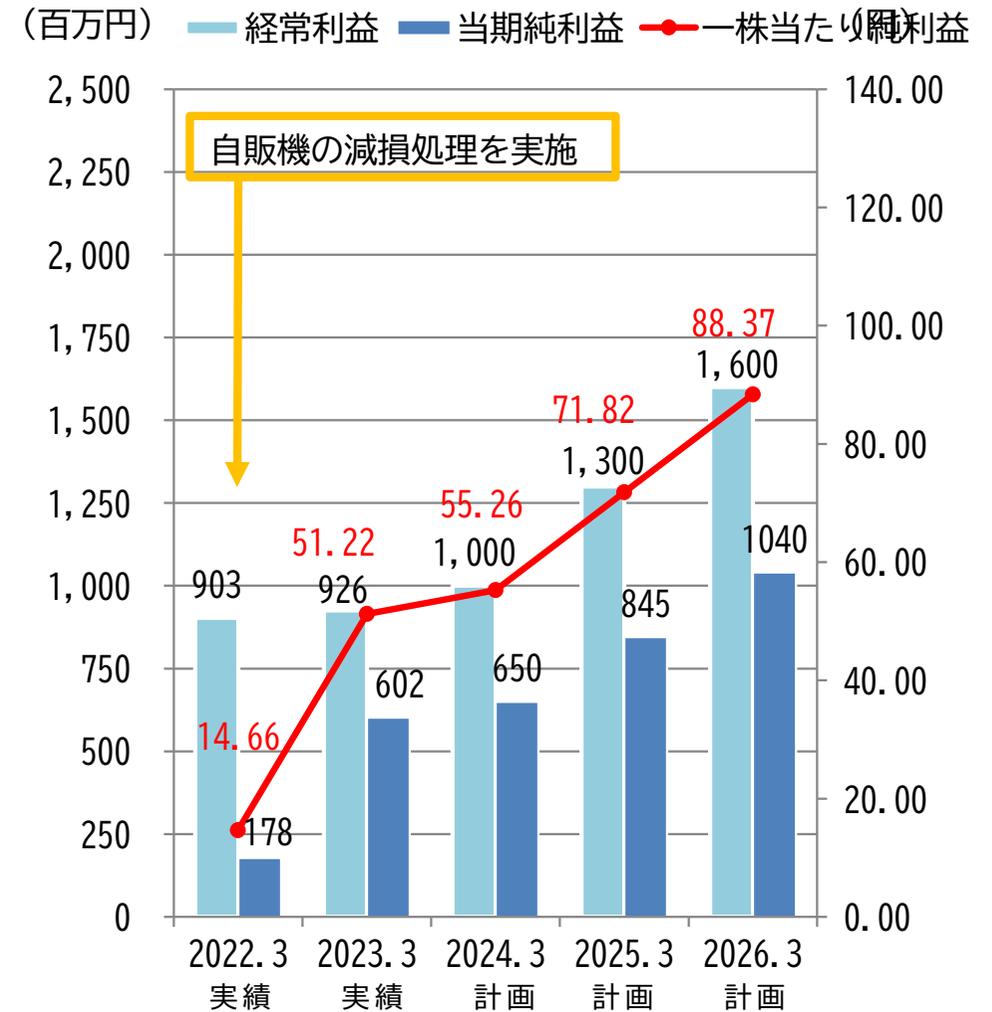
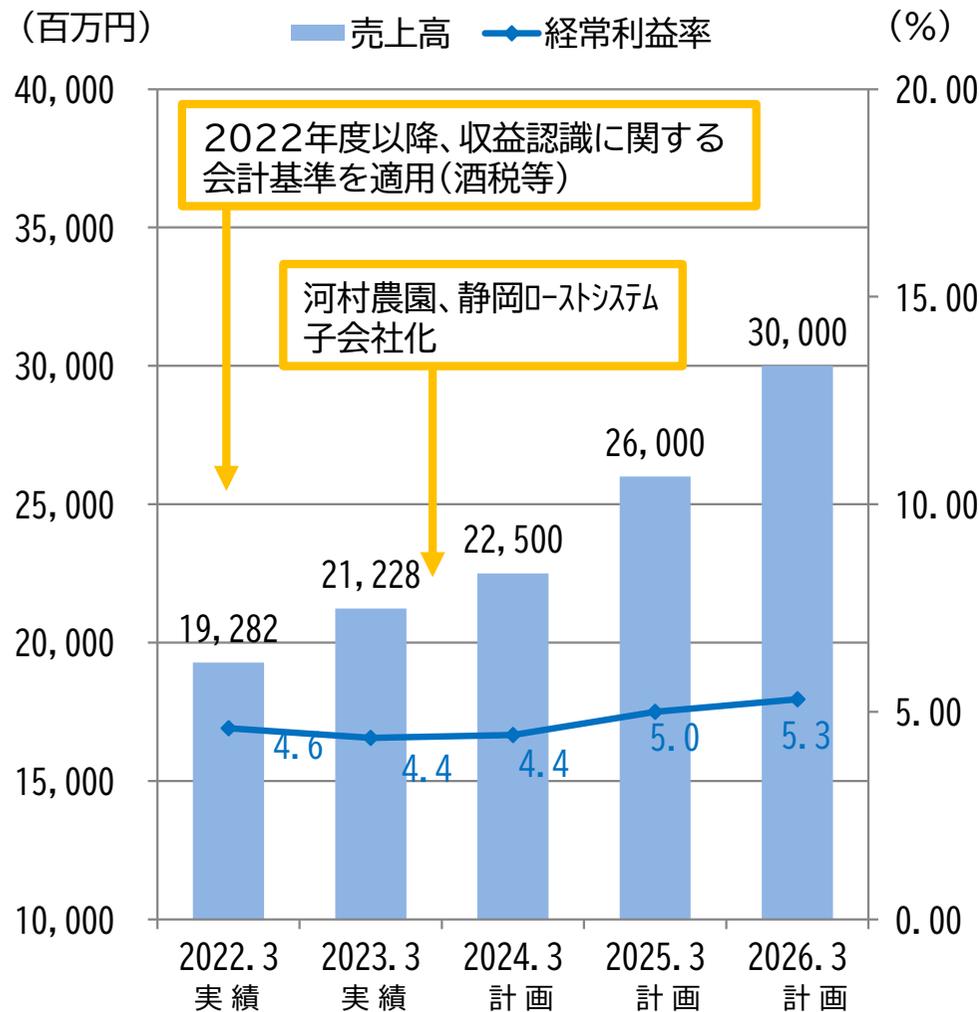
今後3年間で新規投資を実施

売上高 300億円

経常利益 16億円

経常利益率 5.3%

当期純利益 10億円



財務健全性

事業投資が可能な
財務基盤



資本効率

良き投資の対象と
なる資本効率



資産効率

同業でトップクラスの
資産効率



株主還元

安定性、継続性を
考慮した株主還元



※は2023年3月期実績

●配当政策

- ①今期は1株当たり年16円普通配当を予想
(配当利回り 2.8% 株価580円の場合)
- ②内部留保はM&A、海外投資、飲料設備等に優先的に充当
- ③配当性向30%程度を基準に中長期的な増配基調を目指す

	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3予想
1株当たり 配当金	12円	12円	16円 普通配当14円 記念配当2円	16円
配当性向	48.8%	81.9%	31.3%	29.0%

●株主優待

100株以上保有の株主様にクオカードを贈呈

100株以上： 500円相当クオカード

500株以上： 1,000円相当クオカード

1,000株以上： 2,000円相当クオカード

2,000株以上： 3,000円相当クオカード



1. ブランド創造企業への挑戦

- ・自社ブランドの開発・販売強化
- ・健康茶分野での販売強化

2. 既存事業（自販機運営リテイル事業・飲料製造事業）の成長

【自販機運営リテイル事業】

- ・自販機での売価アップによる収益性改善及び2社統合による削減効果
- ・更なるM&Aの推進

【飲料製造事業】

- ・原材料・資材、燃料費の高騰に対応した迅速な価格転嫁
- ・炭酸ラインの営業強化(東西2拠点によるシナジー強化)
- ・飲料製造の同業者ネットワークの推進

【その他事業】

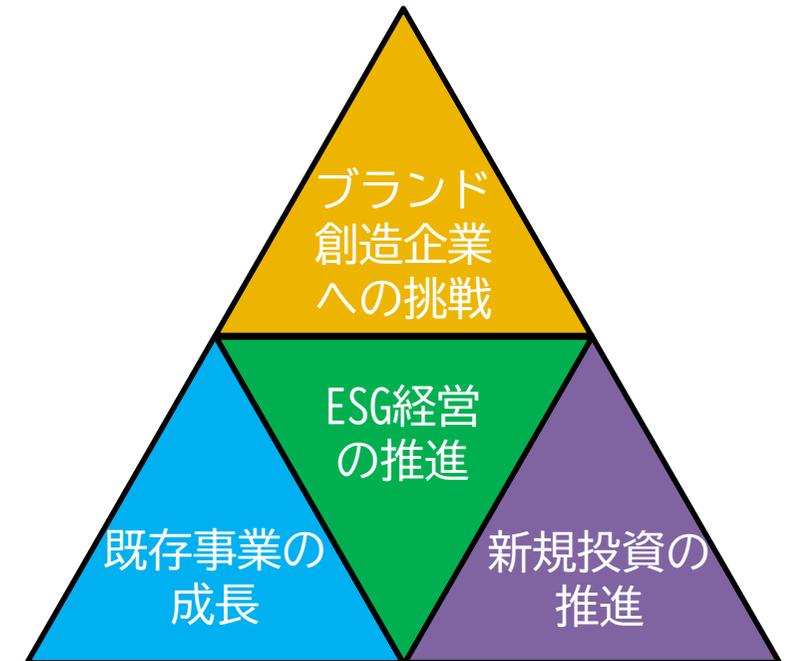
- ・2024年問題に対応するため、グループ物流の内製化の検討

3. 新規事業創出やシナジー創出のためのM&Aの推進

- ・自販機運営リテイルや飲料製造に次ぐ第3の柱づくり
- ・食品業界を中心に新規投資の実行、海外事業への投資

4. ESG経営の推進

- ・環境・社会・ガバナンスに対する活動をグループ全体で推進



●デザインリニューアル (今春製造分より)

地域のこだわりや、果実の自然な味わいをより伝えられるようなデザインにリニューアルしました。



●ジャパン・フード・セレクション グランプリ受賞 (2023年3月)

20,000人以上のフードアナリストが審査を行う「ジャパン・フード・セレクション」において、沖縄シークワサーのチューハイが最高賞である「グランプリ」を受賞いたしました。



●愛南ゴールドのチューハイ (2022年9月5日発売)

「愛南ゴールド」は、愛媛県最南端の町である愛南町で収穫される「河内晩柑」という品種の柑橘のことで、初夏に旬を迎える稀少な柑橘です。「苦味のない和製グレープフルーツ」といわれています



●有田みかんのチューハイ (2023年3月25日発売)

有田地域の温暖な気候の中、段々畑で太陽の光をたっぷり浴びて育った有田みかん。その有田みかんを2種類の方法で搾汁したストレート果汁を使用し、果実本来の味わいが楽しめるチューハイです。



●女王のノンアル スパークリングワインテイスト (2023年3月25日発売)

カベルネ・ソーヴィニヨンがメイン品種のボルドーワイン、シャルドネから作られる白ワインは、共に「ワインの女王」といわれます。その2種の果実に由来する本格的なノンアルコールスパークリングワインです。



<カベルネ・ソーヴィニヨン>



<シャルドネ>

●ためして寒天ダイエット コーヒー味 (2022年9月13日)

普段のコーヒーの代わりとして飲んだり、ポーションミルクとの相性もぴったりなコーヒーゼリーのよう小腹サポートとしても楽しめます。



●ECサイトの開設 (2022年7月)

ためして寒天ダイエット、パレードシリーズなどのアシード商品を取り扱うECサイトをオープンしました。



●株式会社河村農園の子会社化

2022年8月に株式会社河村農園を子会社化しました。

1987年の創業以来、「世界一美味しい健康茶をつくる」という想いととも健康茶の栽培を続けています。

機能性表示食品の認証を得た「ごぼう茶」を始めとした健康茶の販路の拡大を目指すとともに、健康茶栽培のノウハウを活かしてアシード商品の健康・ヘルスケア分野の強化を目指します。



●Instagram活動強化

就活生向けの情報などを発信する企業アカウント、アシード商品の情報を発信する商品アカウント、アスターを社員のおつまみとともに紹介するアスターアカウントの3アカウントを更新しています。



@aseed_hd
(企業アカウント)



@aseed_jp
(商品アカウント)



@aster_jp
(アスターアカウント)



●Twitterアカウント開設

アシードグループについて情報を発信しております。定期的にキャンペーンを行い、商品の認知度向上を図っています。



@ASEEDofficial



●YouTubeチャンネル開設

アシード商品の魅力を伝える動画を投稿していきます。第1弾として今年3月に発売した「アスター 有田みかんのチューハイ」の紹介動画を投稿しました。



飲料製造原価の高騰などの影響で、昨年10月1日に大手飲料メーカーの主にPETボトル飲料の希望小売価格の値上げが10円～20円行われ、それに合わせ当社は飲料の販売価格の改定を実施し、収益の改善を実施。

5月1日には、小型缶飲料の値上げが行われることとなり、当社も販売価格の改定を実施。

2022年10月改定

	改定価格
小ペットボトル(280mlなど)	130円 → 140円
大ペットボトル(430ml、500mlなど)	130円～160円 → 140円～170円
大型缶、ペットボトル(水、430ml、500mlなど)	110円～150円 → 130円～170円

2023年5月改定

	改定価格
小型缶(190ml、250ml、350mlなど)	130円 → 140円

●前期のM&A実績

2022年4月、佐賀の自販機301台の営業権を譲受

2023年2月、神奈川の自販機392台の営業権を譲受

アシード横浜支店の開設

所在地：神奈川県横浜市港北区新羽町762-3番地



●これまでのM&A実績(自販機運営は100台以上のみ)

買収年月	地域	自販機台数	買収形態	現在
1999.2	群馬	11,816	株式取得	グループ会社
10	福岡	639	株式取得	合併
2000.2	東京	896	株式取得	合併
11	広島	-	株式取得	グループ会社
2002.3	京都	250	営業権譲受	
7	宮城	1,993	株式取得	合併
2003.10	愛知	1,700	営業権譲受	
2004.4	青森	420	株式取得	合併
2005.9	石川	750	株式取得	合併
2008.11	青森	289	営業権譲受	
2009.7	広島	240	株式取得	合併
2010.1	青森	107	営業権譲受	
6	東京	389	営業権譲受	
7	青森	376	営業権譲受	
8	大阪	459	営業権譲受	
2011.4	広島	383	株式交換	グループ会社
2012.6	静岡	204	株式取得	合併
2018.12	大分	135	営業権譲受	
2019.3	和歌山	203	営業権譲受	
2020.10	福島	212	株式取得	2021.12 合併
2021.6	茨城	493	株式取得	グループ孫会社
2022.4	佐賀	301	営業権譲受	
2023.2	神奈川	392	営業権譲受	

	過去	新型コロナ前	新型コロナ後
自販機市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料販売の最大の販路(40%) ・設置先増加による売上拡大 ・定価販売が基本 	<ul style="list-style-type: none"> ・手売市場に逆転される(25%) ・コンビニとの競合、缶コーヒーの低下 ・メーカーの高止まり ・労働環境悪化の是正 	<ul style="list-style-type: none"> ・CSRの観点から、経済合理性のない自販機は撤去の方向 ・メーカーの適正化 ・無人店舗である自販機へのニーズは高まる ・食品・物販など飲料以外の拡大
飲料メーカー系列 オペレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・売場として設置台数拡大を推進 ・飲料メーカーによる独立系オペレーターの買収(シェア拡大) 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料メーカー同士の自販機での相互販売 ・直営の一部エリアを独立系へ委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・直営のオペレーター事業の見直し ・地域の独立系オペレーターとの連携 ・飲料メーカー同士の自販機事業再編
独立系 オペレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料メーカーの代理店として拡大 ・事業者数:全国500社以上 ・飲料メーカー無償貸与機でP/Mを無視した設置競争 	<ul style="list-style-type: none"> ・零細オペレーターの限界 ・人手不足による継続困難 ・創業者世代の事業継承が課題 ・事業者数:約125社 	<ul style="list-style-type: none"> ・オペレーター同士のアライアンスが加速 ・中堅以上の事業者数:全国30~50社に集約 ・飲料メーカー系列オペレーターとの提携
当社のスタンス	<ul style="list-style-type: none"> ・M&Aによってオペレーションの効率を上げ、収益性を改革 ・独立系NO1オペレーターを目指し、飲料メーカーとのWIN・WINの関係を構築 ・スマートストア、無人店舗など次世代の自販機モデルに挑戦 		

●宝積飲料 志和工場の製造設備更新（約12億円）

（2023年2月稼働）

生産能力向上

- ・現在の250ml缶に加え、190ml缶・350ml缶・500ml缶の充填も可能
- ・缶・ビンの製造能力は年間200万箱から400万箱に向上

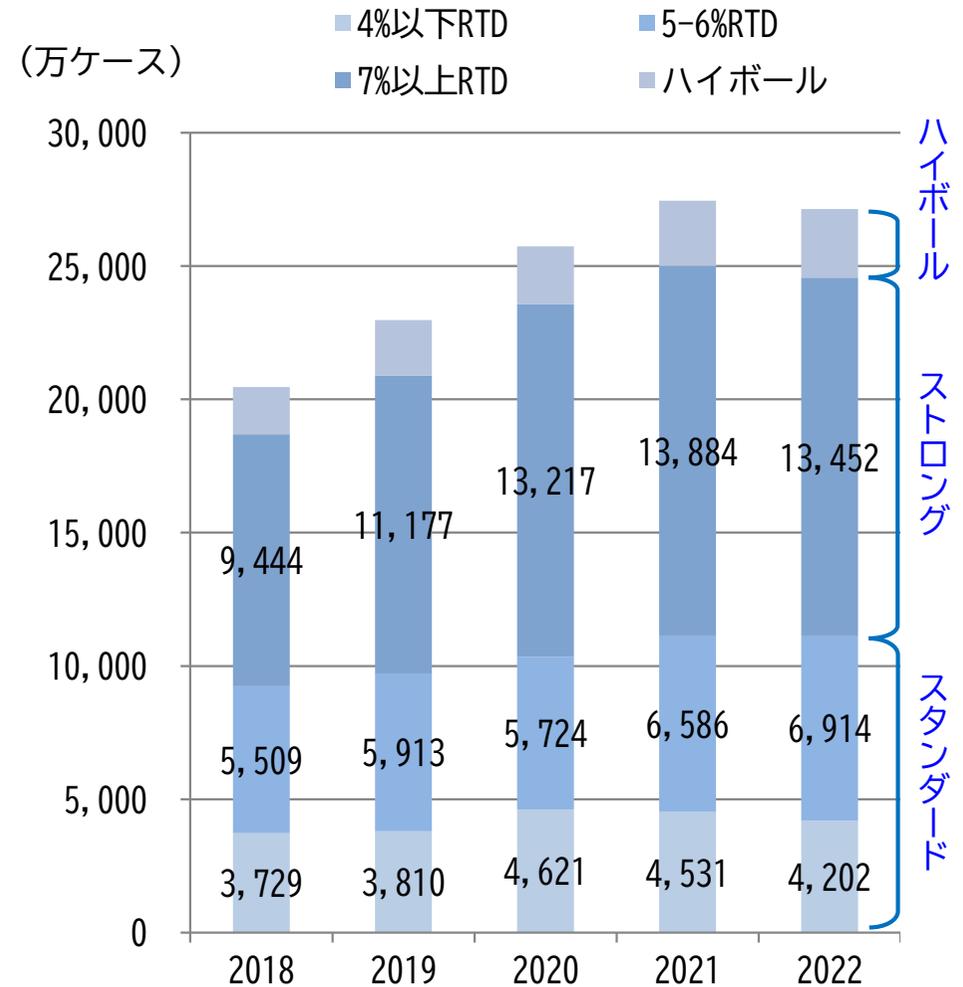
物流の効率化

- ・アシードブリュー株式会社 宇都宮工場と東西2拠点でRTD等の製造を行うことで物流の平準化・効率化を図り、トラック輸送のCO₂削減に寄与



炭酸缶飲料充填設備

●RTD市場推移



出典：RTDに関する消費者飲用実態調査 サントリーRTDレポート2023
250ml*24本換算

●アシードブリュー パストライザーの更新

(2023年1月稼働)

パストライザー更新により、燃料削減効果は約10%

※パストライザーとは
飲料充填後の製品の品質を変化させることなく殺菌するもので、飲料が充填された容器をベルトコンベアで搬送し、約70℃の温水を製品に直接シャワーリングすることで殺菌を行うもの。



パストライザー

●宝積飲料 太陽光発電設備の導入

志和工場の倉庫屋根に太陽光発電設備を導入し、製造工程で使用する電力の一部として利用

発電実績：CO₂を129.36t削減(2022年1月～9月)

アシードブリュー(株)にも導入予定



太陽光パネル

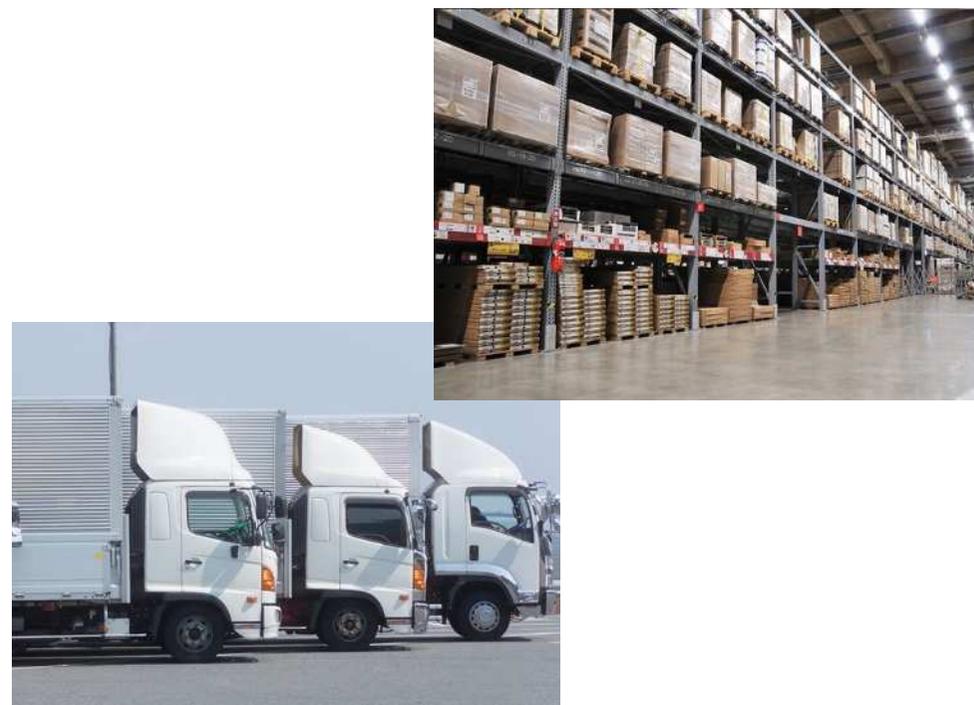
● 同業パッカーとのアライアンス強化

飲料製造事業の更なる成長を目指し、他の同業パッカーとのアライアンスを強化し、自社の製造ラインで製造できない製品を提携パッカーに製造委託し販路の拡大を目指す。



● 2024年問題への対応

トラックドライバー不足など、2024年問題に対応するため、これまで外部企業に委託していた物流業務を、ロジックイノベーションを中心として内製化を検討。物流コストの削減・需要変動に柔軟に対応できる体制とし、競争力の強化を図る。



新規事業への投資拡大

自販機リテール、飲料製造に続く第3、第4の柱となる事業の確立に向けて、2030年までに新規事業(食品製造など)への投資を加速させていきます。

●前期実施した投資

株式会社河村農園の子会社化

【目的】

アシード商品の健康・ヘルスケア分野強化のために健康茶栽培のノウハウを活かす

【会社概要】

株式会社河村農園

所在地:大分県佐伯市直川

大字下直見1548番地

代表者:河村 浩光

事業内容:グアバ及び薬草の栽培

健康素材などの加工商品化・販売



●今期実施した投資

静岡ローストシステム株式会社、 マルサン萩間茶株式会社の子会社化

【目的】

国内トップクラスの安全・安心をお届け出来る体制の維持向上を図るとともに、ASEEDブランド商品の幅を広げる

【会社概要】

静岡ローストシステム株式会社

所在地:静岡県牧之原市

大寄542-1

代表者:浅井 哲也

事業内容:ほうじ茶の製造、販売、各種茶葉・健康茶の受託加工など



マルサン萩間茶株式会社

所在地:静岡県牧之原市大寄542-4

代表者:浅井 哲也

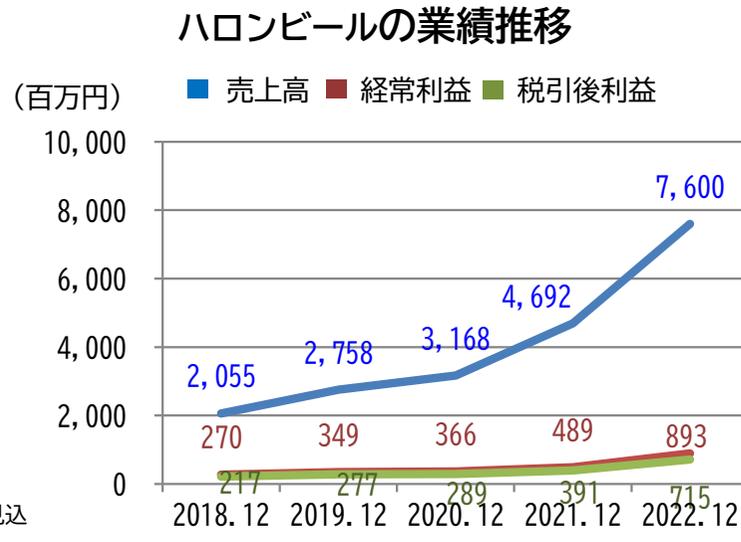
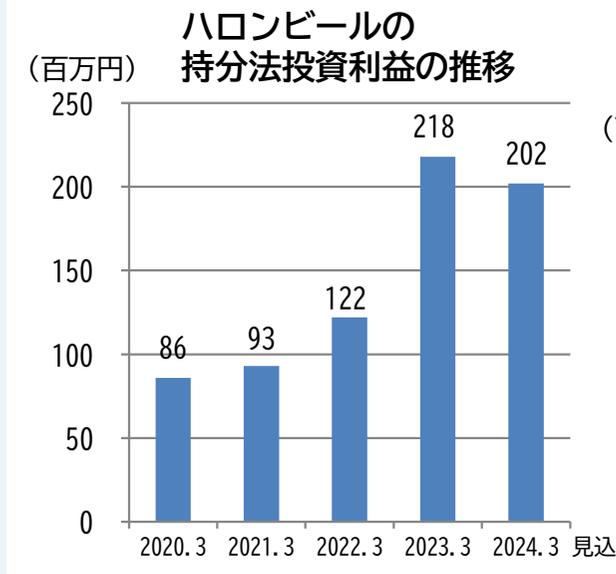
事業内容:インターネットショップの経営、茶の加工及び販売

●海外事業への投資

ベトナム以外のASEAN諸国も含め、更なる投資先の獲得を目指す

●既存投資先のハロンビールの状況

HaLong Beer And Beverage Joint Stock Company に株式投資(出資比率は30.42%)飲料製造のノウハウと、ハロンビールの販売チャネルを相互利用し、ベトナム国内はもとよりASEAN諸国でビール・酒類及び清涼飲料市場を開拓



●ハロンビールの増益要因について

4月以降コロナによる社会的規制がほぼなくなり、ベトナム国内の経済全般が回復基調となり、ビールの消費が伸びてきた。事業エリアを北部の主要都市(ハイフォンやハノイ)へと広げて顧客を増やしている。地域密着の営業を強化してHALONGブランドの認知度が高まっている。

持続可能な開発目標（SDGs）とは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標から構成されています。



当社グループでは、次のSDGs目標への取り組みを行っております。

●省エネ自販機の設置推進



・複数メーカーの自販機が並べて設置されている現状を見直し、複数メーカーの商品を取り扱う当社自販機1台に集約することで、消費電力の削減や景観に配慮する取り組みを進めています。



・最新式のハイブリッドヒートポンプ式自販機を採用し、消費電力の大幅削減を実現しています。



●飲料容器（缶・ペットボトル）のリサイクル



回収した缶・ペットボトルは、専門業者に依頼しリサイクルを進める取り組みを行っています。

●地域スポーツへの支援



・地元スポーツ団体や広島東洋カープの支援を行っています。

●茶殻を肥料の原料として有効活用



緑茶などの飲料を製造する過程で大量に発生する茶殻を、委託先企業で肥料の原料として有効活用ジャガイモなどの生産に利用されています。

●ヘルスケア商品の開発



高齢者や嚥下（飲み込み）困難者に対応した、低カロリーで美味しい水分補給用飲料などのヘルスケア商品を積極的に開発しています。



●太陽光発電の実施



売電や製造工程で使用する電気の一部として使用

アシード株式会社
本社/福山支店



宝積飲料株式会社
志和工場



●フードバンクへ飲料を提供

賞味期限が近い飲料をフードバンクを通じて、食品を必要とする福祉施設・こども食堂等非営利団体・生活困窮者支援団体・食べる事で廃棄を減らす活動に協力してくれる方に無償で提供しています。

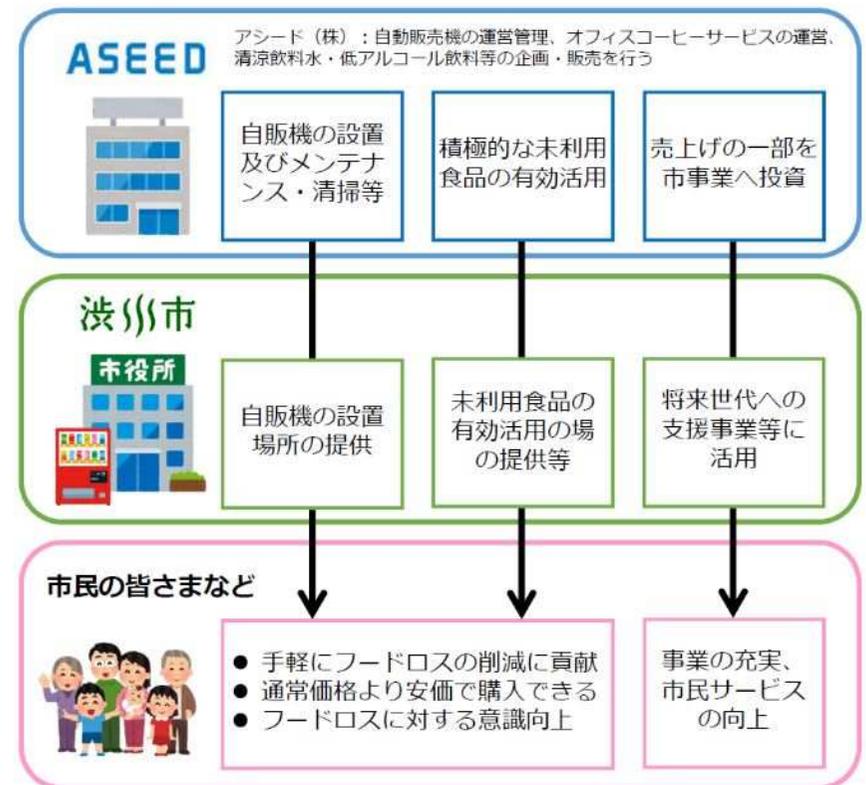
提供実績

- ・烏龍茶(500mlペットボトル) 20ケース
- ・ためして寒天(900mlペットボトル) 24本



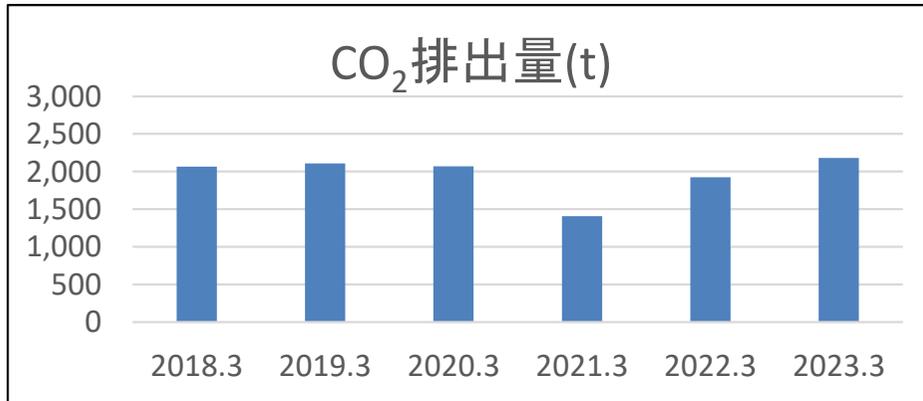
●フードロス自販機の設置

群馬県渋川市の「しぶかわフードロス削減プロジェクト」に参画し、渋川市の市有施設に賞味期限が近くなった飲料（おおむね賞味期限の2~3か月前）や余剰在庫となった飲料を、通常価格より安価で販売する自動販売機を設置しています。



●自販機運営リテイル事業

・CO₂排出量の削減(ガソリン・軽油)



- ・労務改革やルート効率の改善による燃料使用量の減少により、排出量は減少
- ・2021年は新型コロナウイルス感染拡大による休業で燃料使用量が減少し、排出量は大幅減少
- ・人流の回復にともない自販機の稼働率もあがり、燃料消費量も増加

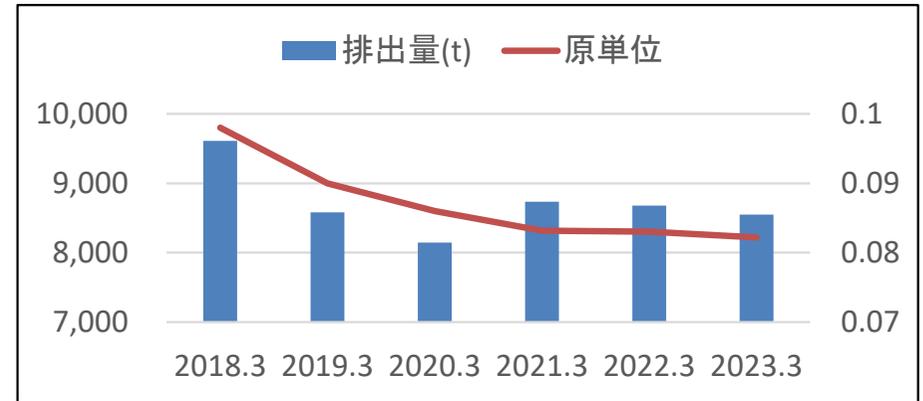
●その他事業

食品リサイクル法に基づき、食品製造や加工過程で排出される食品残漬などを受け入れ、乾燥処理により固形燃料(ペレット)や、肥料として再生する事業を行っています。



●飲料製造事業

・CO₂排出量の削減



・設備の更新等

2020年	アードブルー	炭酸ライン殺菌機、CIP機更新
2020年	宝積飲料	小型貫流ボイラー更新(3t×6基)
2021年	宝積飲料	倉庫屋根に太陽光パネルを設置し、製造ラインの一部で使用
2021年	アードブルー	コンプレッサーの高効率化
2022年	アードブルー	照明の60%をLED化
2023年	アードブルー	パストライザーの更新
2023年	宝積飲料	新炭酸ラインの導入

●コーポレートガバナンスに関する最近の取組み

- 2021年1月 ・ 取締役会の任意の諮問機関として、指名報酬委員会を設置
 - ・ 社外取締役が指名報酬委員会の委員長に就任
- 2021年2月 ・ 取締役の選任に関する方針の決定
 - ・ 取締役の報酬決定に関する方針の決定
- 2021年5月 ・ 取締役会実効性評価を実施
 - ・ 政策保有株式の保有の適否検討
- 2021年6月 ・ 譲渡制限付株式報酬制度（RS）を導入
 - ・ 取締役8名のうち独立社外取締役3名の体制を継続
- 2021年6月 ・ サステナビリティ委員会の設置
- 2022年4月 ・ アシードHDホームページの英訳版公開開始
- 2022年5月 ・ 議決権電子行使プラットフォームの利用開始
- 2023年6月 ・ 有価証券報告書にサステナビリティの記載開始（予定）

英語版ホームページ



本資料・IRに関するお問い合わせ先

アシードホールディングス株式会社

経営企画グループ 担当：川崎、右佐林、田中、岡崎

電話 : 084-923-5552

E-mail : kikaku@aseed-hd.co.jp

URL : <https://www.aseed-hd.co.jp>

【本資料の取扱上のご注意】

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関連する業績予想・計画・経営戦略・方針などは、将来の見通しに関する記述であり、これらは、現在入手可能な情報にもとづく経営者の判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく乖離する可能性がある事をご承知おきください。

また、当資料はあくまで当社を理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするものではありません。さらに将来の予測のみならず、過去の部分も含めて見直し等により予告なしに変更することがありますのでご注意ください。